



【町長が語る 一宮の歴史】



【論語】に「温故知新」という言葉があります。過去のことを知って今に生かせる新たな智慧を得るとのことです。一宮町には、過去にいくつもの画期をなす歴史的事象がありました。こうした歴史的背景は、現在の一宮町のありかたに対して様々な前提条件としていまなお、作用しています。したがって、今の一宮町を理解し、将来の一宮町の構想を練ってゆくとき、過去の歴史に対して正しい認識をもつことは欠かせません。

わたくしは、町長に登板する前、歴史学の研究を職業としていました。そこで、歴史の専門家の立場から、ここで一宮町の歴史をみずから解説し、読者の方々に「温故知新」して頂く手がかりと致したいと考えました。ただ、歴史を語るには、根拠がなくてはなりません。「中庸」に「無徵不信」（証拠がなければ信じられない）という通りです。そこで、記述はすべて、「一宮町史」（1964・一宮町史編さん委員会）、「ふるさと」（1981・上総一宮郷土史研究会）、「ふるさと今昔」（2004・上総一宮郷土史研究会）、「加納久宜集」（2012・松尾れい子）といった、先学の研究成果に依拠しています。そのほか、文中の二、三の伝聞の記録は、わたくしが実際に町の方からうかがったことです。

次ページ以下の一宮町の歴史に関する記述が、本書をひもとく皆様に、一宮町の重層的で豊かな過去のいきさつについて正確なイメージを差し上げ、皆様の一宮町に対するご理解を深めて頂く一助となることを祈念いたしております。



渚のファーマーズマーケット

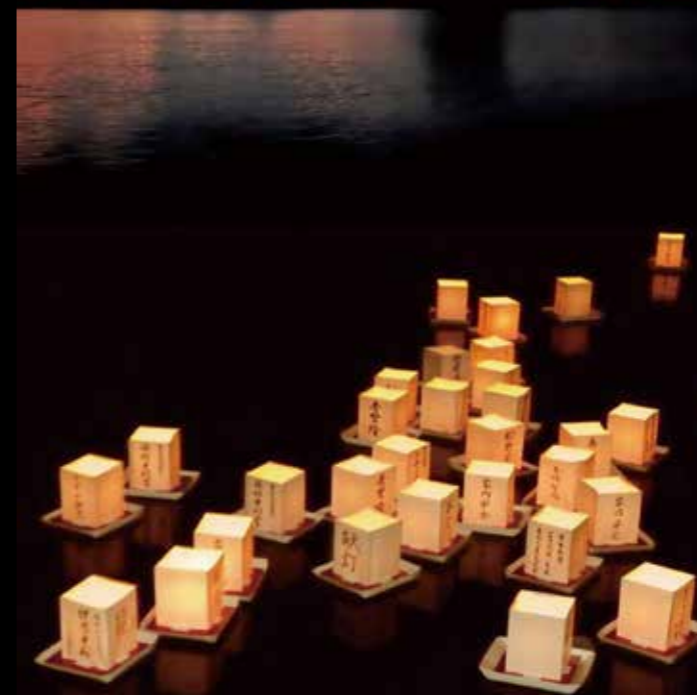


上総国ささが市



一宮の風見明礬り民工が物語る scene 4
賑
のストーリー

一宮町納涼花火大会



燈籠流し



上総国一宮まつり